

令和3年度 江戸川区立南小岩第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ 健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○「温かい心(敬愛・思いやり・感謝)」「確かな学力」「地域への貢献性」を育てる学校 ○よく聞いて、見て、話し合って、体験を生かして考える子。互いに助け合い、人、物、自然を大切に育む子。心身ともにたくましく、めあてをもってねばり強くやりとげる子。 ○子供を育む信念をもつ教職員。児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員。課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員。考えや発想を適時に実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>校内研究「主体的、対話的で深い学び」の授業改善による児童の学習意欲の向上。読書科における探求的活動の推進。児童の運動意欲の向上。学校の安全管理体制の強化。 <課題>挨拶運動の推進による、挨拶意識の一層の向上。各教科における、基礎基本の定着及び主体的、対話的で深い学びの全教科での実践。校内の言語環境、文字環境の整備。特別支援教育の一層の促進、保護者への周知、PR。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	①確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	補習(スキリタイム)実施各学年年間35回以上・二小スタンダードの徹底・連携プログラムの踏まえた学習指導の実施	実施率100% ベシックドリルによる検証各学年10ポイントアップ 保護者満足度85%以上	A	B	○4学年のベシックドリルは昨年比べてポイントアップしており、2学年は目標達成できた。●全学年の目標達成が課題である。	A	各学年の目標達成とともに、保護者の満足度もアップしていることがよい。学校応援団による基礎タイムが復活できるとよい。	学力定着を目指し、補習、スキリタイムのさらなる充実を図っていく。
	②読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	読書科年間計画に基づく探求的学習の実施・学校図書館司書、全学級で活用及び図書ボランティアとの連携・朝読書週2回、読書週間2回実施及び読み聞かせボランティアの活用	読書科年間計画実施率100% 学校図書館司書活用率100% 保護者満足度90%以上	A	B	○夏休み前に全学年で資料の共有ができ長期休業中の探求的学習につながった。○司書と図書ボランティアとの連携から図書室整備が進み、朝読書の時間が充実した。●司書の探究的な学習への授業活用をさらにすすめる。	A	読書は心が育つのでたくさん読ませる工夫をしてほしい。図書館司書と図書ボランティアの協力も高評価につながっている。家庭での読書への取組も大切なことと考える。	読書科年間指導計画をもとに、図書担当を中心に、司書、図書ボランティア、地域図書館等との連携を強化し探究的な読書を推進していく。
	③体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・食育での小・中連携	二小タイム毎週実施・外遊び、縄跳び奨励年間・10月から持久走継続練習・よつば交流	実施率100% 保護者満足度90%以上	A	A	○体力調査の結果分析に基づき、コロナ禍でもできる限りの種目を工夫できた。	A	コロナ禍であっても、種目の工夫や二小タイム等の取組が体力の向上につながっている。	様々な制限下でも可能な運動を研究し、体力向上をすすめていく。
	④オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	プランに基づく全学級でのオリパラ教育の実施・レガシーに係る外部講師の活用年2回	実施率100% 保護者への周知70%以上	A	A	○アスリート、文化人派遣等によりオリパラのレガシーが身に付いた。●外部講師の活用を促進する。	A	児童により刺激となり、夢をもてるので、外部講師の活用を今後もお願ひしたい。	外部講師を可能な限り招致できるように、計画をすすめていく。
	⑤外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	EnglishRoomの活用、教材の充実・教科担任制の促進・ALTの効果的な活用	保護者満足度80%以上 学校関係者評価A 6学年での実施100%	A	A	○ALTとの連携、教科担任制の活用から外国語に親しみをもてるようになってきた。	A	将来のために、外国語に親しみをもち、生きた外国語を身に付けてほしい。	ALT等を活用し、外国語と親しむ、身に付き指導をすすめていく。
	⑥健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	把握時点での即時情報共有・生活指導連絡会毎週実施・SNS東京ルールの実施毎学期確認・SC等との積極的連携	共有率100% 当該保護者満足度90%以上 事実把握後1週間以内に行動、連携100%	A	A	○校内での情報共有体制が整っている。 ○SCを適切に活用している。	A	思いやりのある子が最大のテーマであるので、今後もこの方針を推し進めていくことが必要である。	健全育成の充実を目指し、情報共有、早期発見、早期対応を徹底していく。
特別支援教育の充実	⑦特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	校内委員会の効果的な実施 全学級での個別指導の充実 エンカレッジルーム(ここにこルーム)の効果的な活用 副籍交流の計画的実施	対象児童実施率100% 保護者への周知70%以上 副籍交流対象児との交流計画100%実施	A	A	○毎月校内委員会を行い、支援を要する児童に対する指導や支援方法を検討し、実践していくことができた。●より一層ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。	A	教職員の情報共有を大切に、対応力を強化し、授業に活用してほしい。保護者への周知もさらにすすめてほしい。	校内委員会では、支援を要する児童に関する変更を含めた情報共有を推進していく。
	⑧特別支援教育に係る教員の指導力の向上	・教員の指導力、対応力の向上を目指した特別支援教育研修会の実施	特別支援関連研修年間3回実施	実施率100% 当該保護者満足度90%以上	A	B	○充実した研修会を実施している。●個々の教員の指導力・対応力には差があり課題がある。	A	個々に応じた対応ができるよう、教職員のスキルアップをすすめてほしい。	各学年内外問わず、必要に応じて研修し、対応力を上げていく。
	⑨巡回指導の充実	・巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員等との適切な連携による指導の充実	日誌、記録の閲覧による情報共有及び個別指導への活用、毎日実施	実施率100% 当該保護者満足度90%以上	A	A	○巡回指導教員、特別支援教育コーディネーター等の指導情報の共有から児童の成長があった。	A	各教職員の情報共有からよい成果がでているようなので、継続してほしい。	情報共有を継続し個々の実態に応じた指導を継続していく。
教員の資質向上	⑩教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	教職員ICT研修毎学期実施・デジタル教科書、電子黒板等毎日活用	教職員実施率100% 保護者への周知80%以上	A	A	○教員のICT研修が充実している。○すべての教員が、日常的に電子黒板を使用している。	A	他校の情報も参考にし、新たな教育課題には即対応していく。	
	⑪校内研究の活性化	・「主体的、対話的で深い学び」全教科で実施 ・東京都小学校書写研究会との連携による研究発表会の実施	管理職の授業観察での検証年3回・全担任による研究授業の実施	教職員実施率100% 児童・保護者の満足度90%以上	A	A	○すべての教員が課題意識をもって授業にあたり、授業力向上に努めている。	A	引き続き、児童の学力の向上と教員の指導力向上のために、前向きに取り組んでほしい。	授業の見せ合い等、教師同士が切磋琢磨できるようにしていく。
	⑫働き方改革組織力の向上	・C4thの積極的な活用、学校予算の計画的執行、文書起案、ラインによる進行管理・週ごとの指導計画に基づく教育活動の継続	会議時間の短縮の継続・予算の効果的執行・文書起案等完全実施の継続	参加率100% 保護者満足度90%以上 学校関係者評価A	A	A	○C4thを適切に活用し、会議の短縮につながっている。○起案システムが明確で円滑な進行である。	A	授業や児童に関することに時間を使えるよう今後も改革を続ける。	
特色ある教育の展開	⑬児童の体験的活動、自主活動の推進	・異学年交流の実施、高学年鼓笛隊の実施 ・あいさつ運動を通した言語環境、文字環境の整備及び思いやりの心の醸成	毎学期実施・児童全員参加 ・あいさつ運動年間実施、児童の自主活動の継続	参加率100% 児童の意識80%以上 保護者満足度85%以上	A	B	○「あいさつ隊」など、高学年児童を中心にした自主的活動がなされている。	A	すすんで挨拶できる児童も増えてきている。児童の意識が向上するよう取り組んでほしい。	よい伝統として引き継がれていくよう指導を継続していく。
	⑭安心・安全な学校づくり	・危機管理マニュアル(感染症、災害、けが、アレルギー等)に基づく全職員の協力体制・校内危険箇所への速やかな対応・安全指導の徹底	各種訓練の毎月実施、毎月の安全点検、修理・玄関の施錠徹底・週案への記載	実施率100% 週案への記載100% 保護者満足度90%以上	A	B	○各種訓練や環境整備ができていく。●施錠を徹底する必要がある。	A	担当者任せにせず、全教職員で確認し合う雰囲気づくりが大切と思う。	各種訓練の質の向上、危険を伴う授業の事前確認を徹底する。
	⑮地域との共有・協働	・周年関連行事の実施・PTA活動、地域行事への積極的な参加・HP等による情報公開・学校応援団との連携	・地域等との連携・全教員1回以上参加・HPの毎週更新・学校応援団との連携毎学期	実施率100% 保護者満足度90% 学校関係者評価A	A	B	○周年関連行事に向けてPTAや地域との連携が円滑に行われた。●HPの更新回数が不十分である。	A	地域への配布物は、漏れがないよう確認してほしい。HPの更新も楽しみにしている。	地域との連携を進めるため、情報提供していく。